

泉の森 なんでも情報館

2013年 夏号(No. 10)
発行 しらかしのいえボランティア協議会
エリアマップ作成班

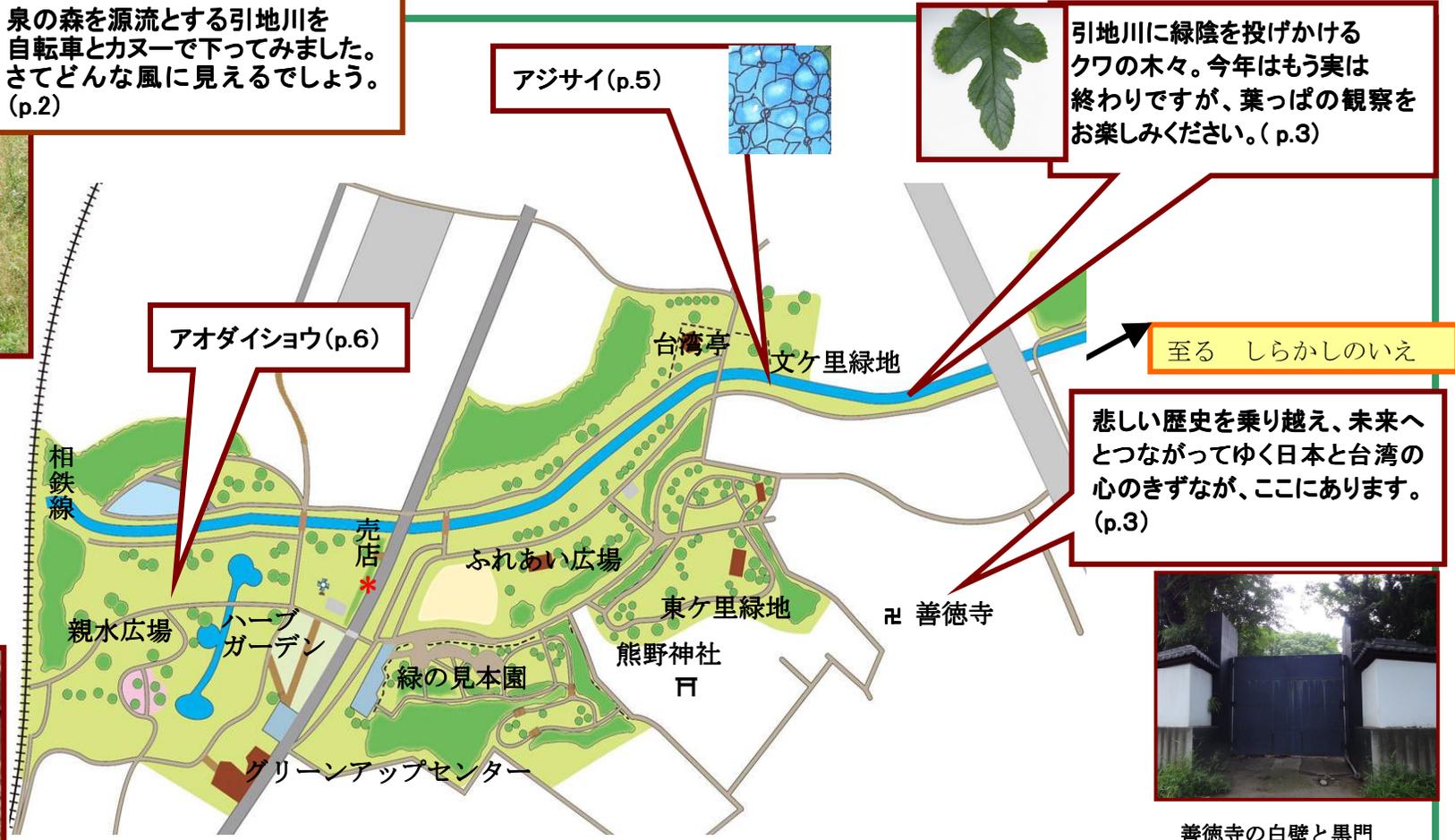
クローズアップエリア その10 ふれあいの森周辺

夏はやっぱり、水辺がいいね…ということで、その5(2012年3月)でご紹介した引地川沿いを、再びクローズアップしました。川下りの冒険記も今号から始まります(随時掲載予定)。日課の散歩も、ちょっと視点を変えて冒険気分で行ってみませんか? 知らなかった歴史秘話、知ってるつもりだった身近な生きもの…きっと新発見がありますよ!



泉の森を源流とする引地川を
自転車とカヌーで下ってみました。
さてどんな風に見えるでしょう。
(p.2)

今年もたくさんのムクドリが、
このエリアで生まれ、巣立っ
ています。みんなのアイドル・カワセミは健在かな?
(p.4)



引地川に緑陰を投げかける
クワの木々。今年はまだ
終わりですが、葉っぱの観察を
お楽しみください。(p.3)

至る しらかしのいえ

悲しい歴史を乗り越え、未来へ
とつながってゆく日本と台湾の
心のきずなが、ここに
あります。(p.3)



善徳寺の白壁と黒門

泉の森から引地川を下る (その1)

引地川は泉の森を源流として相模湾まで 21.3 km を流れ下る川です。同じ相模湾に流れる川は、たとえば相模川(109 km)は山中湖を、境川(52.1 km)は城山湖を、花水川(金目川 21 km)は大山ヤビツ峠付近をそれぞれ源流とするのに比べ、都会の公園に水源があるのはとても不思議なことです。

これまで”なんでも情報館”では、No.3 で水源地付近を紹介し、また No.8 では、大和市北部地域の雨水や工場冷却水も引地川に流れ込むこと、さらには隣接する釣堀”草柳園”の掘り井戸からの地下水も第三の水源になっていること、を紹介してきました。そして、No.5 では、25年前、3面コンクリート護岸の真っ直ぐなドブ川だった泉の森のふれあいの森周辺が、緩やかな流れの柳を使った護岸に変わり、緑に囲まれた水辺の自然復活の物語が述べられています。

河川清掃の市民ボランティア活動も活発に行われ、下水道も整備されて随分きれいになってきた引地川。さて、泉の森を出て、どんな風に流れて行くのでしょうか？ 今回は、泉の森から河口まで、引地川沿いを自転車で辿っていった様子と、実際に川の中を川面の目線で見えていくためのカヌー川下りの試験漕行の様子を紹介します。

1. 引地川沿いを自転車で下る

(1) 藤沢市との境まで： 泉の森を出発し、横浜銀行グランドの横の細道を辿り、環境管理センターを経て、千本桜に至ります。言うまでもない桜の名所。何箇所かに親水護岸があって、子供たちが水遊びをしています。



3/29 福田小学校前



取水が行われている若宮堰を過ぎ、新幹線をくぐるあたりから田畑が目立つようになります。

(2) 藤沢市の引地川中流部： 藤沢市に入ると真っ先に大きな水門が目立つ長後堰があり、田園地帯を経て綾瀬市に源を発する蓼川との合流地点に来ます。その下流の下土棚地区(川地図のA)では大規模工事が行われており、後で調べたら洪水を防ぐための遊水地整備の10年計画の5年目のようで、湘南台までの川岸にスポーツ施設や親水広場などの各種施設ができるとのことでした。

そこを過ぎ、住宅地の間を狭い垂直護岸で囲われて流れる引地川がかわいそうに見えますが、一転、大庭に至ると引地川親水公園(川地図のB)に出ます。川岸にアシが生える広々した公園で、厚木飛行場を飛び立つ編隊ジェット機のように、2羽のカワセミが一行に並んで飛翔する様を見ることができ、嬉しくなりました。

(3) 藤沢市の引地川下流部：

国道1号線・東海道本線をくぐった先の長久保公園のあたりは汽水域になっていて、子供達がボラ釣りをしています。また藤沢カヌー協会のカヌー訓練も行われており、子供達が一生懸命、漕いでいました。鶴沼橋の先に河口があり、江ノ島とご対面です。



5/9 引地川河口

2. 引地川をカヌーで下る (試験漕行)

私も引地川で漕いでみたくなり、ふれあい広場からカヌーで出発しました(表紙写真)。少ない水量でどの程度漕げるか、千本桜の福田小あたりの1mくらいの堰(左の写真)を越えられるかを試すのが目的です。

結論から言うと、半分はカヌーを引っ張って歩いた、特に横浜銀行グランド付近まで川面一杯に繁茂するアシやガマには降参、1m堰は越えられた、です。今回は、千本桜 福田小下で終わりにしましたが、折々にチャレンジを続ける予定。何かしたい方、一緒にやりたい方、歓迎です。

(伊藤 健一)

善徳寺と台湾少年工

<白壁の高塚>

ふれあいの森の東側奥に、長く続く白壁の高塚と黒門があります。一見、大豪邸かと思うような構えですが、実は善徳寺の塚と門です。善徳寺は 430 年以上昔の天正年間に創建された浄土真宗のお寺で、昔から上草柳村や付近一帯の尊崇を集めてきました。境内には本堂や庫裏、鐘楼があり、鐘楼の奥に台湾少年工の慰霊碑があります(写真)。

<台湾小年工慰霊碑と早川金次氏>

この慰霊碑は元高座海軍工廠技手の早川金次氏が昭和 38 年、私財を投じて建立したものです。台湾少年工が終戦直前に米軍艦載機の機銃掃射で死んだとき早川氏は高座工廠の労務にいました。夜勤明けの朝、疲れて空腹のため早い帰寮を望む少年工のために、空襲警報が解除されたが警戒警報はまだ解除されない段階で彼は帰寮を認めました。直後に艦載機が襲来、帰寮途中の6人が死んでしまいます。早川氏は自分の甘い判断が彼らを死なせたと己を責めました。少年工の中には派遣された各地の工場での空襲や病気で亡くなった者がいました。台湾から日本本土まで来て、お国のために懸命に働きながらも志半ばにして倒れた少年工の無念を想い、早川氏は慰霊碑を建てたのです。費用は自宅再建のため夜まで働いて蓄えた金を使いました。彼は空襲で我が家を失い、まだバラック住まいでした。適当な場所がなく困りましたが、少年工が亡くなった場所に近い善徳寺の柳沢住職に相談したところ、境内の一角を提供して貰えることになり、ようやく慰霊碑を建てることのできたのです。

<台湾高座会>

慰霊碑建立の知らせは台湾の 8000 人を越す元少年工の中に瞬く間に広がりました。「日本人はまだ我々を忘れていない。」誰もがそう思ったといいます。台湾から日本色を排除しようとする国民党政府の弾圧の中、元少年工は大変な苦勞をし、ともすればバラバラになっていましたが、これを機に再び結束を取り戻していきます。早川氏は少年工の遺族を台湾各地に見舞い、謝罪と慰霊の旅を続けました。それが戒厳令下にあった台湾の元少年工の日本への想いを良い方向に転じさせるきっかけになったといいます。早川氏の損得を超えた誠の心が台湾の元少年工の心を揺り動かしたのです。

固い結束の下、元少年工は台湾の経済・社会の発展に大きな貢献をしてゆきます。そして、1987 年、戒厳令がようやく解除されるとすぐに元少年工の同窓組織、台湾高座会(正式名称 留日台湾高座同学会聯誼会)が設立されました。終戦から40年以上経っていましたが、会員数は約 4000 人にもなりました。



台湾少年工の慰霊碑

<留日70周年歓迎大会>

今年5月9日に座間市ハーモニーホールで開催された「台湾高座会 留日70周年歓迎大会」に約250人の元台湾少年工が集まりました。14,5歳で日本に来た少年工も既に80代半ばですが、70年たってもこれだけの人数が台湾から日本に来るといのは驚異的です。過去には50周年に約1400人、60周年にも約600人の元台湾少年工が来日しています。彼らは大和を「第二の故郷」と呼び、来日を「里帰り」と称しています。青春の多感な時期に、厳しい試練に耐え、生産や学習に情熱を注ぎ、人生の基盤を作った土地として大和をとらえてくれているのでしょう。彼らは大和を訪れた際には必ず善徳寺にお参りし、台湾少年工の慰霊碑に祈りを捧げています。(橋本幸夫)

参考文献 井上公弘著「二つの祖国を生きた台湾少年工」
野口毅著「台湾少年工と第二の故郷」

★台湾少年工については、本紙第5号「台湾亭-台湾少年たちの青春の記念碑-」でも紹介しております。バックナンバーは「しらかしのいえ」階に保管されています。「スポーツ・よか・みどり財団」のHP(<http://www.yamato-zaidan.or.jp/shirakashi/volunteer>)でもご覧になれます。

この木なんの木?気になる…クワ

泉の森からふれあいの森へ向かう引地川沿いには、川におおいかぶさるように、クワの木があります。

5月下旬から6月初め、赤い実がなり、だんだん黒くなると食べごろです。クワの実には、ミネラルが豊富に含まれています。散歩の途中、ちよつとつまんでみてはいかがでしょう。汁が服に付くとなかなかとれません。ご注意ください。

クワの木の葉は、成木では、楕円形ですが、若い木は、五裂、ないし三裂の深い切れ込みが入りとても同じ木の葉とは思えないほど異なる形をしています。木によっては、丸い葉のなかに、分裂した葉が混じっていることもあります。「若い頃はいろいろとがっていたけれど、年をとってだんだん丸くなって、でもまだ、少しはとがっていたい」なんて木に、親しみを感じて眺めています。

(伊藤真佐子)



これがクワ



これもクワ



みんなクワ

ムクドリ ～意外に知らない身近な鳥～

(椋鳥 ムクドリ科 ムクドリ属)

「畑やグランドにたくさん群れている、くちばしと脚がオレンジ色の鳥って何ですか？」とよく聞かれます。「それはムクドリですよ」というと、たいいてい「エーッ!?あれがムクドリ!？」と驚かれます。そうなんです。「ムクドリ」という名前は知っていても、その実態を知らない人が多いのです。いまいち有名ではないムクドリですが、ほぼ一年を通して、ふれあいの森や親水広場周辺で見られる身近な鳥です。

体長(くちばしの先から尾の先まで)は約 25cm。茶色っぽい地味な鳥ですが、最初に書いたようにオレンジ色のくちばしと脚はよく目立ちます(写真①)。腰の部分が白いのも目立ちます。顔も白いのですが、この白い部分の広さや形は一羽一羽と違っていいほど違いがあります。中には白い部分が広く、志村けん“バカ殿様”の白塗りの顔を思わせるものもあります。「ギョルギョル、ギャギャツ、ギャー」などと騒がしく鳴きます。この声、最近では「じえじえっ」と聞こえる人もいませんね。

親水広場に巣箱付きの照明灯があるのをご存知でしょうか?(写真②)この巣箱のユーザーは、ほとんどがムクドリです。春になると、巣箱を覗いたり巣材を運びこんだりする姿が見られます。5月末から6月は子育ての真っ最中。一度に4～7羽のヒナが生まれます。親鳥は巣箱のヒナたちにせっせと食べ物(虫やサクラの実など)を運びます。やがて、家族そろって芝生などを歩き回り、食べ物を探す姿が見られるようになります。家族の群れは次々に合流して、大きな群れになります(*)。この辺で見かける群れは数十羽から数百羽ですが、広い農耕地のある地方では数千羽、時には一万を超える大群になります。夏から翌年の冬の終わりまで、ムクドリたちは群れで暮らしますが、寒さが緩み始める頃には群れは解消。ムクドリたちはそれぞれパートナーを見つけて、新しい命をはぐむための新生活を始めます。

(小林みどり)

* :ムクドリの群れは、その年に生まれた若鳥だけで作られる、という説もありますが、筆者の観察では、群れには成鳥も含まれていることが多いようです。

写真① ムクドリ 顔の白い部分が、かなり広い個体。

写真② ふれあい広場にある巣箱付きの照明灯



カワセミ ～今年は一休、何処へ!??～

(翡翠 カワセミ科 カワセミ属)

引地川を自転車のブレーキのような「チー」という音を出して、川面をすっ飛んで行くコバルトブルーの背中、オレンジ色のお腹をした小さな鳥(体長約 17cm)。これが「空飛ぶ宝石」と言われるカワセミです。ところが今年はどうしたのか、あまり姿を見せてはくれません。そして、カワセミを狙って写真を撮りに来る人も少ないように思います。カワセミが巣を作る場所というのは土の崖で、蛇などに狙われない所に直径 5センチぐらいの穴を深さ1メートルほど掘り込みます。川近くに造ることが多いのですが、崖が崩れたり、宅地に造成されたりして巣を作る場所が段々無くなって来ている。毎年巣の場所を変え、ここ引地川を住处にしているカワセミも住宅難に遭っているようです。川にいる餌の小魚なども少なくなると子育てが大変になるので、産卵数を少なくするということが言われています。

カワセミの写真集を見ていたとき、水に飛び込み、餌を捕る瞬間に目が白く膜で覆われる写真がありました。この膜は瞬膜(しゅんまく)と言って、ほとんどの鳥類、カエルや爬虫類にもあり、目の角膜を保護するものです。カワセミが水に飛び込む瞬間を撮ることへの、カメラマンの挑戦には素晴らしいさを感じました。

(藤井和子)

☆右の写真のカワセミの目は、白っぽく濁っていますが、これは病気などではなく瞬膜に覆われた状態と思われます。このように、水に飛び込む時ではなくても、目が瞬膜に覆われることがあります。



野鳥の写真提供:金子精一さん(座間市在住)

<お願い>

ここでご紹介したムクドリ、カワセミを始め、野鳥は子育ての期間(春～夏)は、たいへん神経質になります。巣の近くに人間がいると(特に長い時間、巣の近くに滞在すると)、警戒して子育てを止めてしまうこともよくあります。すると当然、卵やヒナは死んでしまいます。子育て中の野鳥の観察・撮影には、十分ご配慮ください。

第11号(2013年秋号)は 10月頃発行の予定です。どうぞ、お楽しみに!

(中小田美希)

なんでも休み時間③ 紫陽花時記

あじ「せいじき」

さて、そんな風に人々を引きつけてやまないアジサイは、
 実には白樺はこの木に付いて、
 誤解しているのです(3)



アジサイ

その②
 紫陽花は誤字である

~~紫陽花~~
 アジサイ



古い、厚い本には、この字はあて字であるとして記され、植物は漢字になると大抵、あて字になります。

手前みそではありますが、私はアジサイが大好き♡
 白花と青花が好まれます



アジサイの多いこの森林は、とても魅力的です。

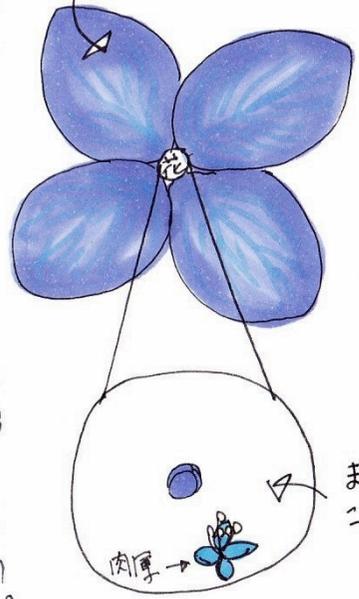
アジサイが咲くのは、存在知カエルの季節かな？
 まあ、そのつまり梅雨です。主に6月。



2)

その①
 アジサイの花は、とても小さい

装飾花



まかに開いているこもあり

知ってる！という方も、おそろしい。自立するのは花壇ではない！

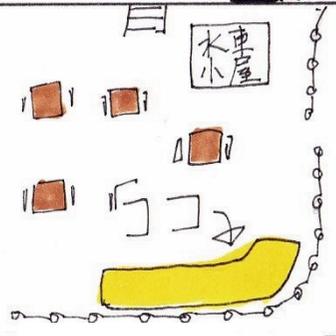
泉の森では、貴重なタマアジサイが大切に育てられています。

【長〜く楽しめます!!】

【月下旬頃〜咲き始め】

あたたかく見守って下さいね。

完




(中小田美希)

なんでモ休み時間④ふれあって.出会って.

